

2022年度

国際ITビジネス科

3年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K05			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Business Writing II ビジネス文書 II					国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	30	1	松本 三知代	
授業の目的						
<p>仕事では、社外向け、社内向けを問わず、さまざまなビジネス文書を読んだり、作成したりする。本科目では、eメールのビジネス文書を中心にビジネス文書を作成する能力を身につけることを目的とする。授業の前半では、基礎的な実践として、メールの内容別にそれぞれのケーススタディによって、ポイントや練習問題を通して基本の表現を学ぶ。授業の後半では、応用として、実践的にメールを作成し、実践力を磨く</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 話し言葉と書き言葉の使い分けができる。 (2) さまざまな用途・状況にあった表現を理解し、使い分けができる。 (3) 段落構成をし、レポートを書くことができる。 (4) ビジネスメールのマナーに従い、メールのやりとりができる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時試験			20%			20%
修了時課題			20%	20%		40%
随時課題			15%	10%	5%	30%
受講態度					10%	10%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『ゲンバの日本語 応用編』スリーエーネットワーク 『しごとの日本語 メール書き方編』アルク						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K07			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Business Manner 2 ビジネスマナーⅡ					国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	30	1	夏目 靖子	
授業の目的						
<p>ビジネスマナーⅠで学んだ社会人としての心得を確認しながら、さらに日本の社会を理解し活躍できる人材育成をする。「まんが」を利用し登場人物に立場に立ったり、学生の体験談を聞いたりして、日本のビジネス現場のリアルに触れながら、ロールプレイングで実践力を養う。</p>						
授業の到達目標						
<p>①日本のビジネス社会について深く知り、親しみや関心を持つことができる。 ②日本のビジネス現場の中で実施に行われているコミュニケーションを理解し、自らも適切に表現して、周りの人と十分に意思疎通ができる。 ③ビジネス場面にふさわしい会話や行動ができる。 ④日本のビジネス習慣や文化に触れ、自分の国と比較しながら、日本の社会を理解できる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
単元テスト		20%	20%		40%	
ロールプレイング		10%	20%	10%	40%	
受講態度				20%	20%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人 日本漢字能力検定協会『マンガで体験！ にっぽんのカイシャ』 ・資料プリント、練習問題、演習問題(自作) 						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K08			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Introduction to Business Administration 経営学概論					国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	30	1	小野 哲	
授業の目的						
<p>製品を設計・生産する上で必要となる関連知識を総合的に学習する。 特に、近年後工程を意識した製品設計、コストを意識した設計業務が求められており、益々幅広い知識が求められている。 製造業全般に関わる「言葉」を理解し、世界で通用する業務知識を習得する</p>						
授業の到達目標						
<p>製造業に関わる日本語を理解できるようにする 製造業に携わる者として工場の骨格（注文・人・金・モノ・設備・情報）を理解し、工場の運用業務、管理業務を知ることによって社会人としての知識を身に着ける また、最新技術についての事例紹介／解説を行ない、世の中の方向性を理解する</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト（筆記）		30%	10%		40%	
随時テスト（筆記）		20%			20%	
課題			10%	10%	20%	
受講態度			10%	10%	20%	
使用テキスト・教材						
『工場のしくみ』 日本実業出版社 自作講義資料						

シラバス (授業概要)		年度		2022 年度	
		科目コード		R3-K09	
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Marketing マーケティング				国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	1	山田 穎二
授業の目的					
マーケティングは、企業及び他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、消費者の求めている商品を作り、価格や販売方法などを決める総合的な考えを指します。「誰に・どのような価値を・どのようにして提供するか」を習得するために考察します。					
授業の到達目標					
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マーケティングの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマーケティングを習得できる (4) マーケティングにおける商品を知ることができる					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目					
期末テスト (筆記)		60%	%	%	60%
随時テスト (筆記)		30%	%	%	30%
受講態度		%	%	10%	10%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
なし					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2022年度		
					科目コード	R3-K10		
授業科目名					学科・コース			
Financial management 財務管理					国際ITビジネス科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
3	後期	必須	30	1	朝倉 将貴			
授業の目的								
日本の企業に就職する際にライフプランニング、タックスプランニング等の基礎知識を理解していることが求められる。まずは、自分の将来設計について考え、税金、社会保険料、控除等について理解することが目的である								
授業の到達目標								
給料明細を参考に、税金、社会保険、各種控除等の意味を理解する。								
授業方式								
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型	<input type="radio"/>			
授業形態								
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ	<input type="radio"/>	PBL	<input type="radio"/>	反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
修了試験					15%	15%		30%
随時試験					15%	15%		30%
随時課題					10%	10%	10%	30%
授業態度							10%	10%
使用テキスト・教材								
随時、プリント配布。								

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K11			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Human Resources 人的マネジメントと組織					国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必修	30	1	中村 真	
授業の目的						
人間の行動の仕組みを理解することで、社会人に求められる基礎的な力の習得を目指しながら、日常生活におけるセルフコントロールと、他人との関わり方を効果的なものにする方法を学ぶ。またマネージャーとして交渉力や調整力を発揮するための基礎を身に付けていく。						
授業の到達目標						
(1) 企業の仕組みを理解し、出された指示に対して肯定的に捉える力を持つ。 (2) 依存ではなく自立した状態を作れる。 (3) 否定的な見方から客観的・肯定的視点に移行できる。 (4) 協働の概念を理解し、プロジェクトチームの一員として行動できる。						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション	<input type="radio"/>	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	<input type="radio"/>	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
レポート		10%	20%		30%	
途中課題		10%	20%		30%	
ワークショップ実践		5%	15%	10%	30%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
・プリント資料、演習課題（講師作成）						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K14			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Japanese Culture 2 日本文化Ⅱ					国際ITビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	120	4	三浦 千尋	
授業の目的						
日本語能力試験 N1 合格と、卒業後の社会人生活で起こるあらゆることを日本語を用いて解決するための日本語能力を身につける。『上級で学ぶ日本語』のテキストとワークブックを併用し、習得した語彙、文法を駆使し、さらに一歩進んだ音声や読み物に触れる。また、内容理解に必要な日本の文化風習、日本人の考え方も併せて習得していく。日本語能力試験対策としては、模試と練習問題を中心に行っていく。						
授業の到達目標						
1. 日本文化風習、日本人の考え方についての知識が得る。 2. 難解な日本語に接した場合、自ら調べ、意味を理解することができる。 3. 日本語能力試験 N1 に合格する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了試験		15%	15%		30%	
随時試験		15%	15%		30%	
随時課題		10%	10%	10%	30%	
授業態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
『上級で学ぶ日本語』『上級で学ぶ日本語 ワークブック』 『中級から学ぶ日本語』『中級から学ぶ日本語 ワークブック』						

シラバス (授業概要)		年度	2022年度			
		科目コード	K-24			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Presentation II プレゼンテーション技法Ⅱ					国際観光・ビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	60	2	鈴木 加絵	
授業の目的						
<p>これまで習得した日本語を、ホテル・観光業やサービス業でのお客様対応に活かすため円滑なコミュニケーション能力と顧客視点を身に着ける。 覚えた単語を単に活用するのではなく、お客様に合わせて言葉を使い分け、ユーモアのある会話力でお客様に付加価値を与えることのできるサービスマンを目指す。</p>						
授業の到達目標						
(1) 謙譲語・敬語・丁寧語の使い分けを理解し、さらに語彙を広げることで自信をもって日本語でのコミュニケーションをとることができる。 (2) 相手の立場に立って、真摯な姿勢でコミュニケーションをとることができる。 (3) 顧客のニーズをとらえたサービスや商品の提供ができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
面接ロールプレイング			20%	20%	10%	50%
商品・サービスプレゼンテーション			10%	20%	20%	50%
受講態度／出欠 (加点・減点)			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
接客サービス基本テキスト (キャリア総研)						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度		
		科目コード	R3-K25		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Home Page Design 2 ホームページ制作Ⅱ				国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	寺尾 寿樹
授業の目的					
企業がDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進していく中で、そこで働くスタッフには常に情報を正しく取り扱い、管理運営し、適切な情報発信をするための正しい知識の修得が求められる。学生は情報リテラシーをケーススタディを通じて、実践的に演習していく。それを踏まえてコンテンツを制作しながら、正しい倫理観を養い、活用できる人になることを目的として学ぶ。					
授業の到達目標					
(1) 日本の社会における情報の取り扱いについて理解し、説明できるようになる。 (2) 個人情報保護、著作権等の知的所有権について理解し、実践できるようになる。 (3) 個人情報保護、著作権等の知的所有権に配慮した上でのコンテンツ制作ができるようになる (4) 適切な情報発信ができるようになる。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション	○
ロールプレイ		PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
修了課題		20%	20%	10%	50%
修了テスト		20%	%	%	20%
随時テスト		10%	%	%	10%
受講態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
教員が用意するプリント教材					

シラバス (授業概要)		年度	2022年度			
		科目コード	R3-K29			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Programming Language 2 プログラム言語Ⅱ					国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	60	2	岡田 靖志	
授業の目的						
NC工作機械を動かすためのプログラム作成法について学習する。フライス系(マシニングセンタ)工作機械を制御するGコード、M機能等についてシミュレーションと試作を行いながら習得していく。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> 加工図面からNCプログラムを作成し、シミュレーションを行いながら動作の確認を行う。 オリジナルのネームプレートの加工図面をCADで作成し、プログラムの作成をする。 シミュレーション完了後、実際に加工を行う。 						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		50%			50%	
課題提出(作品)		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
テキスト：入門NCプログラミング 教材等：プログラム開発用パソコン、開発ソフト、NC加工機						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K31			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
System Design 2 システム設計Ⅱ					国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必修	30	1	岡田 靖志	
授業の目的						
2年次に学習したリレーシーケンスを基に、制御用コンピュータ「シーケンサ」のプログラムと制御方法の基礎技術を学習する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・シーケンサ用のラダー図を読み書きできる。 ・シーケンサの基礎命令語を理解し、ラダー図をプログラムに変換できる。 また、プログラムからラダー図が書ける。 ・課題演習のラダー図が書ける。 						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト (筆記)		50%			50%	
随時テスト (筆記)		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
テキスト：『リレーとシーケンサ』 教材等：プログラム開発用パソコン、開発シミュレータ、シーケンサ実習機材						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K33			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
System Development Practice 2 システム開発演習Ⅱ					国際ITビジネス科 IT・CAD コース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	90	3	山田 友作	
授業の目的						
<p>会社の職場で一番利用されているExcel（表計算）ソフトだが、活用レベルは簡単なものにとどまっている傾向がある。Excelの機能を使いこなせば、仕事の効率化・標準化につながる。本講座では、Excelの機能の一つであるマクロ/VBAを活用した方法を実践できるようにする。</p> <p>また、プログラミングの正解は一つではないので、他の方法も考えて演習させることで、さらに理解度を高める。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) プログラムを記述・実行するための手順を理解し、説明できる。</p> <p>(2) プログラムに必要な機能を理解し、説明できる。</p> <p>(3) しくみを考え、プログラムとして表現できる。</p> <p>(4) プログラム中の誤りを発見し、修正することができる。</p> <p>(5) 問題点を把握し、解決策をみつけて、問題を解決することができる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
前期修了時テスト（筆記）			20%	20%		40%
後期修了時テスト（筆記）			20%	20%		40%
課題				10%		10%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
・よくわかるExcel2019/2016/2013 マクロ/VBA（FOM出版）						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K37			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Mechanical 2D CAD 2 機械2次元CAD II					国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	30	1	岡田 靖志	
授業の目的						
制御用コンピュータ「シーケンサ」のプログラムと制御方法の基本技術を習得する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンを使用して、ラダー図やプログラムの作成ができる。 ・ 作成したプログラムをシーケンサに転送できる。 <<制御対象>> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランプの制御 ・ エアーシリンダの制御 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時試験 (筆記)		50%	%	%	50%	
課題作成 (プログラム作成と動作確認)		40%	%	%	40%	
受講態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
テキスト：リレーとシーケンサ 教材等：プログラム開発用パソコン、開発シミュレータ、シーケンサ実習機材						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K39			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Mechanical 3D CAD 2 機械3次元CADⅡ					国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	60	2	岩田 とも子	
授業の目的						
3次元CAD (Inventor) の高度な操作を習得する。 図面作成に必要な三面図の考え方を理解し、立体図がイメージできるようにする。 いろいろな機械製図の読み方を習得する。						
授業の到達目標						
(1) 3次元CADの高度な操作を正しく理解することができる。 (2) 立体イメージでモデルを作成できるようになる。 (3) モデルを加工し、より完成度が高いモデリングができるようになる。 (4) 課題を考えて正確に作成し、期限を守って提出することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
修了時試験 (実技)			40%	10%		50%
課題作成 (実技)				30%	10%	40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
・『図解 Inventor 実習 ゼロからわかる 3次元CAD』(森北出版株式会社) ・演習課題 (自作)						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K40			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Mechanical CAD Exercises 機械CAD演習					国際ITビジネス科 IT・CADコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	90	3	岩田 とも子	
授業の目的						
<p>昨今、ものづくりにおいて、CADは欠かせないツールとなっている。 この授業では、世界標準となっているCADソフト Autodesk 社のAutoCAD (2次元) を使用して、CADによる図面作成の習得を目指す。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 2次元CAD (AutoCAD) の高度な操作を習得する。 (2) 機械製図の仕組みを習得する。 (3) ミスのない図面を書く訓練をする。 (4) 表現力を付ける。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時試験 (実技)		50%			50%	
課題作成 (実技)		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
・演習課題 (オリジナルプリント)						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K42			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Geography for sightseeing II 観光地理 II					国際ITビジネス科 観光ビジネスコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	30	1	神谷 由佳	
授業の目的						
①各都道府県の主な市町村名・観光地・産業の知識を得る。 ②主要な交通網についての知識を得る						
授業の到達目標						
・日本の都道府県名、場所、観光地、産業が分かる。 ・移動する時に使用する主要な交通網が分かる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期テスト		40%	%	%	40%	
確認テスト		10%	%	%	10%	
課題提出		%	%	15%	15%	
授業態度		%	%	10%	10%	
出席状況		%	%	5%	5%	
発表		%	10%	10%	20%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『るるぶ 地図でよくわかる都道府県大百科』 『鉄道旅がもっと楽しくなる地図帳』 『日本の世界遺産』						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K44			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Service and reception skills II サービス・接遇II					国際ITビジネス科 観光ビジネスコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	120	4	安部 珠恵	
授業の目的						
<p>語学力、日本文化の理解、「おもてなしの心」。学生はこれら日本の接客業でもとめられるコミュニケーションスキルを習得し、現場で主体的なサービスができるようにロールプレイングで訓練を積み重ねることが求められる。また、ホテル、空港、デパートなどで使用される高度な接客表現や所作マナー、場面ごとの適切な対応を学び、その身につけた技術を証明するために「サービス接遇検定3級」の取得を目指す。</p> <p>さらに、適切な電話対応を可能にするため、ビジネス電話の型を覚え、聞き取りやすい日本語の発音でスムーズに対応できるように訓練する</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) ホテル、レストラン、空港を想定し、おもてなしの心を伝える接客用語と所作を使用できる</p> <p>(2) 正しい敬語と文法でお客様への依頼、謝罪、提案ができる</p> <p>(3) サービス接遇2. 3級を取得する</p> <p>(4) 聞き取りやすい日本語で電話対応ができ、施設の案内、予約、キャンセルなどができるようになる</p> <p>(5) 顧客心理を理解し、クレームの対応ができるようになる</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
終了時テスト (筆記、ロールプレイング)			50%	%	%	50%
随時テスト (筆記、ロールプレイング)			10%	%	%	10%
課題			10%	%	%	10%
受講態度			%	15%	15%	30%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『おもてなしの日本語』 『サービス接遇3級実問題集』 プリント						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K46			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Tour Planning II ツアープランニングII					国際ITビジネス科 観光ビジネスコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	選択	120	4	鈴木 康久	
授業の目的						
<p>ニューツーリズムの概念と全国の観光地の知識を習得する</p> <p>実際の観光地へのフィールドワークを行い、観光地の魅力や課題も研修する</p> <p>浜松の歴史についても研修を行う 着地型旅行のプランニングを行う</p> <p>前期後半では、JR時刻表、運賃計算など高度な能力を習得する</p> <p>後期の前半では、観光の現場でフィールドワークを行い、就職活動に役立つ研修する</p> <p>コースプランニングは2泊3日以上国内旅行プランニングを演習する</p> <p>最終は自身で作成したプランをプレゼンテーションする</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 全国の観光地の特徴、地理、歴史を習得</p> <p>(2) 着地型旅行のプランニング基礎を習得</p> <p>(3) 接客のおもてなし術を習得</p> <p>(4) 全国のコースプランニングをニーズに合わせてできる</p> <p>(5) プレゼン能力を習得</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
終了時プレゼンテーション		30%	20%	%	50%	
定着テスト		10%	%	%	10%	
課題		10%	10%	%	20%	
受講態度		%	%	20%	20%	
使用テキスト・教材						
<p>講義では配布するレジュメ、パワーポイントを使用する</p> <p>JR時刻表は講師から配布(2~3人に1冊)</p>						

シラバス (授業概要)		年度	2022 年度			
		科目コード	R3-K49			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Hotel General Remarks ホテル総論				国際ITビジネス科 観光ビジネスコース		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必修	30	1	杉森沙奈恵	
授業の目的						
今まで習った知識を形にでき、さらに履歴書に書け、就職活動でアピールできるようにホテル実務技能検定試験を受験。そのための練習を行う。今まで培った力/ホテル知識を再確認する。						
授業の到達目標						
各セクションの仕事内容を理解することができる。 ホテル実務技能検定試験 初級に合格することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
随時テスト			20%	10%	%	30%
出席状況			%	%	10%	10%
態度			%	10%	10%	20%
期末テスト			40%	%	%	40%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
・『ホテル実務技能検定試験 初級問題集』 サーティファイ						

シラバス (授業概要)					年度	2022 年度	
					科目コード	R3-K50	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Hotel Research ホテル研究					国際ITビジネス科 観光ビジネスコース		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	後期	必修	30	1	杉森沙奈恵		
授業の目的							
2年間勉強してきた最終クラスのため、今までのまとめを含めニーズにあったホテルを選択できる。去年行った予約やチェックインの実技応用を行うことで、対応力を身に着ける。							
授業の到達目標							
<p>主要なホテル(国内、外資)についての情報を簡単に説明ができる。</p> <p>浜松駅近くのホテルを知り、個々のニーズにあったホテルを案内できる。</p> <p>ホテルで働いた時、お客様のリクエストに沿うよう案内ができる</p>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業			
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
随時テスト(チェックイン、予約)				20%	20%	%	40%
出席状況				%	%	10%	10%
態度				%	10%	10%	20%
プレゼンテーション				10%	10%	10%	30%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
使用テキスト・教材							
・『ホテル業界大研究』 産学社							

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2022年度
					科目コード	R3-K52
授業科目名					学科・コース	
Service English II ホテル専門用語活用II					国際ITビジネス科 観光ビジネスコース	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3年	後期	必修	30	1	杉森沙奈恵	
授業の目的						
外国人のお客様が多い昨今、日本語だけでなく英語での対応もできるようにするため基本的な英語表現を学ぶ。						
授業の到達目標						
ホテルで外国のお客様と英語でコミュニケーションをとり、要望に応えることができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
随時テスト (ベルデスク、フロント、レストラン)		20%	20%	%	40%	
出席状況		%	%	10%	10%	
態度		%	5%	5%	10%	
期末テスト		40%	%	%	40%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『ホテル英会話 I 基礎編』 日本ホテル教育センター						

